

目次

- ISO/TC58/SC4 (容器及び附属品の使用規格) 世界会議参加報告…………… 1
- 第56回IHC会議 (AIGA主催) に参加 …………… 2
- 特集：カーボンニュートラルな社会への挑戦
ー産業の脱炭素化を支える包括的ソリューションー (エア・リキード／日本エア
・リキード合同会社) …………… 5
- 賛助会員 ー株式会社千代田精機ー…………… 8
- 第65回日本呼吸器学会学術講演会に出展 …………… 10
- ウェブサイト掲載お知らせ一覧 ー2025年2月15日~2025年4月15日掲載ー …… 11
- 販売品の価格改定について …………… 13
- 新事務局員の紹介 …………… 13
- 気ままにコラム …………… 14



ISO/TC58/SC4(容器及び附属品の使用規格)世界会議参加報告

2025年2月18日～21日にドイツ・ベルリンのドイツ規格協会（The Deutsches Institut für Normung e.V.：DIN）にて、ISO/TC58/SC4国際会議が開催されました。

ISO/TC58/SC4は、ISO（国際標準化機構：International Organization for Standardization）の中に設けられた58番目のTC（ガス容器関連の技術専門委員会：Technical Committee）の内に設けられた4番目のSC（ガス容器および附属品の使用規格を定める技術専門小委員会：Sub Committee）を指しており、高圧ガス容器および附属品の国際標準化文書を定める活動を進めています。



ISO/TC58/SC4 国際会議会議風景

JIMGAはKHKを通じてJISC（日本産業標準調査会）からISO/TC58/SC4の当該国際委員を委嘱されており、年間を通してISO/TC58/SC4が担当する規格案や規格の定期見直しに対して投票案を作成する等の取り組みを行っています。今般、ISO/TC58/SC4への出席の打診があり、JIMGA事務局（山西）と容器技術部会長（柿木）の2名が日本代表として参加しました。

今回の会議は、ホスト国のドイツに加え、カナダ、中国、フィンランド、フランス、イタリア、ノルウェー、ポルトガル、スウェーデン、イギリス、アメリカ、日本の11か国、ECMA（欧州容器製造者協会）、世界LPG協会代表者等が参加しました。

議長（CGA）の議事進行により、SC4事務局から、規格定期見直しの実施状況と来年度の見直し実施予定の報告、各WGからの活動状況報告、関連ISO委員会および関連団体からの報告、SC4の活動およびTC58全体の活動について議論され、15項目の決議が行われました。このうち、CylinderおよびValveの定義を明確化する決議は、今後のISO文書に付加される重要な決議でした。

次回は、2026年5月に、中国大連にて開催されることが決定しました。

（産業専門委員会 容器技術部会 部会長（大陽日酸株式会社） 柿木 一大）



ISO/TC58/SC4 国際会議参加者全員の写真撮影

第56回IHC会議(AIGA主催)に参加

第56回IHC (International Harmonization Council) 会議が、2月25日と26日にシンガポールのパラドックス・シンガポール・マーチャント・コート・ホテルで開催されました。

参加者は、AIGA (アジア) 1名、EIGA (ヨーロッパ) 2名、CGA (アメリカ) 3名、JIMGA (日本) 3名 (澤木専務、山西常務執行役員、久和野) の参加に加え、IOMA-GC (International Oxygen Manufacturers Association - Global Committee : 国際酸素製造者協会-国際委員会) オブザーバー6名 (Air Liquide、Air Products & Chemicals、Air Water、Linde、Messer Group) ならびにゲストとして招待されたAIGA Chinaから1名およびIGAS (Industrial Gas Association、Singapore) から3名が参加し、総勢19名でした。

会議は主催者であるAIGAのMilan Sarkarさんの歓迎の挨拶で開始され、前回第55回IHCブリュッセル会議 (EIGA主催) 議事録の確認を行った後、各協会から活動状況について報告されました。

各協会の活動報告

AIGAからは、2024年の実績としてASU/パッケージガス/水素等に関するウェビナーを6回実施、AIGAの20基準を中国語やベトナム語に翻訳および安全啓発のためAIGA基準リストが収められた「Safetyノート」を作成したこと等が紹介されました。また中国河南省義馬ASU倒壊事故の教訓を各国産業ガス協会に展開していること、また中国においてはCIGIA (中国工業ガス産業協会) がASUと酸素貯槽間に14mの離隔距離確保を基準化しようとしているとの報告があり、これに対しAIGA Chinaが既存設備については適用外とする旨を基準に明記するよう要望しているとの報告がありました。さらにAIGAから国際整合化文書への新たな提案「ASUのHAZOP実施方法 (仮称)」があり、今後AIGAが提案書を作成することとなりました。

CGAからは、事故統計や各種セミナー開催状況等の報告の他、2024年1月に“CO₂ Solution Coalition”を立ち上げたとの報告がありました。本組織の目的は、立法者、規制当局、一般市民にCO₂の必要かつ有益な利用について啓発することとし、今後利害関係者と連携して正確な情報やベストプラクティスを共有しながら、CO₂管理への総合的なアプローチを提唱していくとのことでした。

EIGAからは、主に水素関連ワーキンググループ(WG)の活動状況に関する報告があり、WG-14では従来の水素関連およびCCUSへの取り組みの他、アンモニアに関する対応も取り込み、既にキックオフ会合を開催したとの報告がありました。なおWG-14の対象範囲については、今後WG-11およびCGA主催HyCO委員会の対象範囲と整合を図っていくとのことでした。またPFAS規制については、その後進展がないことも報告されました。

JIMGAからは、停滞容器特別回収月間の実績を報告した他、医療用容器への充填許容期間が15年から20年に延長される規制緩和が行われたこと、また今後検討が予定されている規制緩和項目等について報告しました。

国際統合化文書に関する協議

国際統合化文書については、最初に現在進行中プロジェクトの進捗報告がありました。「A-1147 水素設備距離」については、4協会レビューにおいていくつかの変更提案があり、それらの評価が3月に完了する予定であること、また「A-1149 液体水素バルク移充填コネクタの設計」については、現在図面が入手できないため作業が停滞しているとの報告がありました。

その後、今後取り組むべき改訂プロジェクトについて協議され、「R1-1087 半導体用特殊材料ガスの安全な取扱指針」、「R2-1106 客先に設置した水素配管設備」および「R3-1015 遠心式液化酸素ポンプ」について改訂を開始することとなりました。

また、2022年6月28日に中国雲南省曲靖市で発生したパーライト噴出コールドボックス倒壊事故に関してCGAタスクフォースが検討した結果、「R2-1051 パーライト管理」、「R4-1084 コールドボックスの安全な設計と運転指針」および「R4-1018 空気液化分離装置の安全運転指針」について、記述をより具体化させるなどの小規模な改訂をすることとなりました。

なお、国際統合化文書制定プロセスにおける時間短縮についての協議では、協会レビュー期間および変更提案に対して合同作業部会（JWG）が解決策を示すまでの期間をそれぞれ短縮することが提案され、まずは1年間試行し再評価することとなりました。

水素関連、CCUS、GHS改訂への対応

水素関連については、Hydrogen Production Committee（水素製造委員会）にて昨年世界基準とのギャップ分析を実施し3基準（水電解装置関連および水素液化関連）の基準化を開始しましたが、それらに加えて、水素ソースとしての小型SMRやアンモニア分解等の周辺機器を対象として追加しギャップ分析を7月末までに完了させることが決まりました。

新たな議題であるCO₂に関するCCUSについては、今後優先して取り組むべき範囲について協議されました。その結果、優先すべき範囲として「原料ガスの不純物除去、回収、精製、液化／圧縮」が挙げられました。一方、各国の法規制による制約などの理由から「パイピング・輸送」や「有効利用・アプリケーション」の優先度はそれよりも低く設定されました。さらに、産業ガス業界があまり関与していないことを理由に、「地下貯槽」が最も優先度の低い範囲とされました。



第56回IHC会議風景

その他、GHS（The Globally Harmonized System of Classification and Labeling of Chemicals：化学品の分類および表示に関する世界調和システム）の改訂が2025年6月から開始されるとの情報があり、これにCGAとEIGAが参加するとのことでした。



以上、IHC会議は盛りだくさんの議事について協議され大変有益なものとなりました。

なお、これまでIHCに長年貢献されてきたCGAのRich Craigさんがこの6月に引退することによって記念品が贈呈され、Richさんからはお別れの挨拶がありました。引退後は何をするか伺ったところ、奥様がすでにやって欲しいことリストを作って待ち構えている、と柔らかな笑みで応じていました。今後もご活躍されることを祈念します。

次回第57回会議（CGA主催）は、2025年8月19日～20日にCGAオフィスで開催される予定です。

（国際委員会 IHC部会長（大陽日酸株式会社） 久和野 敏明）



最後の挨拶をするCGAのRich Craigさん（一番右）



JIMGAでは、運営方針の一つに「カーボンニュートラルな社会への挑戦」を掲げ、業界全体としてカーボンニュートラルの実現を目指しています。本号では、会員企業各社の脱炭素化に向けた取り組みをご紹介します「特集：カーボンニュートラルな社会への挑戦」（第4回）をお届けします。※本特集に記事掲載をご希望の場合は、JIMGA広報までご連絡ください。

産業の脱炭素化を支える包括的ソリューション

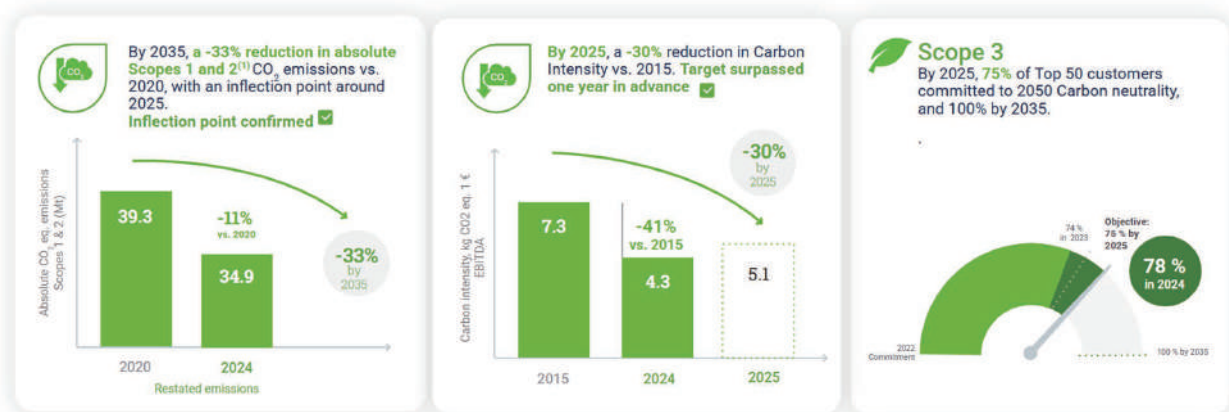
～エア・リキード／日本エア・リキード合同会社～

エア・リキードグループは、戦略プラン「ADVANCE」を策定し、財務・非財務目標を併せた包括的なパフォーマンスの達成を目指しています。私たちが直面する環境および社会的な課題に対応し、持続可能な未来を創出するために具体的な行動を起こすことが私たちの責務です。

エア・リキードグループは、低炭素産業ガスの供給からCO₂の回収・マネジメント、産業プロセスの変革まで、世界中のお客様の脱炭素化への取り組みをサポートする技術とサービスソリューションの包括的なポートフォリオを保有しています。

当グループは、自社資産の脱炭素化に取り組んでおり、持続可能な開発目標の中で、2035年までに排出量を3分の1に削減し、2050年までにカーボンニュートラルを達成することを目指しています。

また、エア・リキードは自社の二酸化炭素排出量を削減するだけでなく、様々な産業分野のお客様に対して脱炭素化への取り組みを支援する持続可能なソリューションを開発しています。



低炭素水素製造と水素の活用

水素はエネルギー転換実現のための鍵となります。産業、エネルギー、モビリティの各分野における多くの用途において、低炭素ソリューションとして大きな成長の可能性を秘めています。

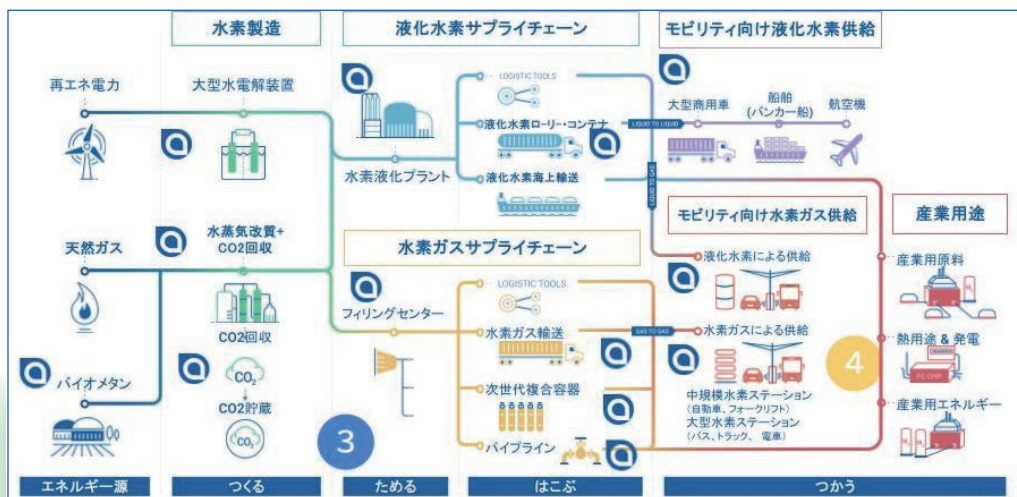
PEM電解装置：電気を使って水分子を電気分解し、水素と酸素を生成します。PEM電解装置技術には、水力、風力、太陽光発電など変動が大きく断続的な再生可能エネルギーにすばやく適応できるという大きな利点があります。



エア・リキードは、フランス・ノルマンディー地方のゴンフルヴィル製油所に再生可能・低炭素水素を供給するため、トタルエナジーズと基本合意書を締結し、出力200MWの電解装置「Normand'Hy」に4億ユーロ超の投資を決定しました。2026年後半から供給を開始し、そのうち100MW分は製油所向け、残りは地域産業や低炭素モビリティ向けに使用されます。

バイオメタン：有機廃棄物の分解により自然発生するバイオガスは、エア・リキード独自の膜技術により精製され、二酸化炭素やその他の物質を取り除くことで、高純度のバイオメタンを製造しています。このバイオメタンはグリーン水素製造などの工業プロセスにおける天然ガスの代替燃料として、また産業におけるエネルギー源や再生可能な原材料として利用でき、CO2排出量を削減します。エア・リキードは、ヨーロッパ、アメリカ、アジアなど世界中に26基のプラントを保有しています。

水素ステーションネットワーク：水素の普及と利用拡大に取り組んでいます。水素ステーションの設計から製造、設置、試運転、メンテナンスまで、自動車、バス、トラック、列車、そして近い将来には船や航空機など、お客様のニーズに合わせて標準化またはカスタマイズしたソリューションを提供します。クリーンなモビリティを実現するため、水素ステーションや安定的な供給が可能な水素サプライチェーンの構築を実現し、輸送事業を中心に様々なお客様の脱炭素の支援に取り組んでいます。日本では福島県本宮市に日本初の24時間365日運営の大型燃料電池（FC）トラック対応の水素ステーションを運営しています。



エア・リキードによる低炭素水素サプライチェーン

お客様の二酸化炭素排出量削減を支援

CO₂回収 Cryocap：エア・リキードは、CO₂を捕捉、精製、液化する独自の Cryocapテクノロジーにより、特にヨーロッパで数多くの大規模CO₂回収・貯留（CCS）プロジェクトに携わっています。最大98%のCO₂の回収が可能で、フランスの石油化学工場における水素製造装置のCO₂回収は年間10万トンになります。

自己熱改質（ATR）：ATRによる水素製造技術は、CO₂回収技術と組み合わせる事で大規模な低炭素水素・アンモニアの効率的製造プロセスを可能にする方法として利用されています。新潟県の日本初ブルー水素・アンモニア製造・利用一貫実証プロジェクトにこのATR技術が採用されています。

半導体向け先端材料 enScribe：エッチング先端材料のenScribe製品群は、お客様の工場のエッチングプロセスで使用される様々な材料ガスの地球温暖化係数（GWP）の影響を低減するように設計されています。

水素燃料によるガラス製造：水素を利用する酸素燃焼技術を活用する実証実験を行っています。ガラス製造向けの酸素燃焼プロセスの一部に水素燃焼バーナーを導入することで、CO₂排出削減を可能にします。

エネルギー転換の加速は喫緊の課題であり、今行動を起こすことが求められています。エア・リキードは、お客様やステークホルダーの皆様と足並みを揃えて行動することこそが成功につながると確信しており、高い技術力を活かした革新的なソリューションを提案することに努めていきます。

エア・リキードグループのサステナビリティサイト：

<https://www.airliquide.com/sustainable-development/advancing-for-a-sustainable-future>

（日本エア・リキード合同会社 広報本部）

賛助会員 —株式会社千代田精機—

沿革

株式会社千代田精機は、1946年に溶断器の修理工場としてスタートし、1948年に「株式会社千代田精機工作所」として設立。以降、ガス溶接・切断器や圧力調整器の製造を開始し、高圧ガス機器メーカーとして日本の産業を影から支える企業として成長してきました。

1995年の阪神・淡路大震災で本社工場が全壊・全焼するという困難を乗り越え、翌年には本社ビルを再建しました。現在は、兵庫県内に本社・製造工場を9カ所・全国11営業所を拠点として多種多様な産業分野に営業展開をしております。



本社社屋

事業について

当社は、ガス溶断・溶接機器および高圧ガス関連機器や装置を設計・製作し様々な産業を支えています。主な製品には、圧力調整器、ガス切断器・溶接器（バーナー）、高圧用バルブ、積層断熱真空配管、炭酸ガス気化器があり、高圧ガス用集合装置等の製作および高圧ガスを安定して供給するための配管工事も行っており、一貫したご提案と対応が可能です。



気化器／減圧ユニット



積層断熱真空配管



ハイセット・カードル

環境問題や新しいニーズへの対応

社会環境の変化により技術の進展も必要となり、新しいニーズにお応えするためのソフトやハードのアップデートを行い、脱炭素社会貢献にチャレンジします。

身近な対応としては、鉄鋼・造船業のアーク溶接作業に必要な各種シールドガス（アルゴン・炭酸等）の節約を目的としたエコ製品の製作・販売を既に開始しております。

また、水素社会への急速なシフトチェンジにより、手軽で安全に操作できる高圧ガス関連機器の開発はもちろんですが、同時に高圧ガスの危険性も認識しながらお客様目線を優先させ、製品ラインナップの拡充を目指し、これからも日本の産業と共に進んでまいります。

（株式会社千代田精機 営業本部 西田 智）



第65回日本呼吸器学会学術講演会に出展

2025年4月11日～13日の3日間、東京国際フォーラムで開催された第65回日本呼吸器学会学術講演会において、JIMGAは在宅酸素療法の火気取り扱いと携帯用酸素ボンベの取り扱いに関する注意の啓発展示を行いました。

今回の学術講演会のメインテーマは「変わる。認める。共創する多様性」とし、在宅酸素療法保険適用40周年を迎え、これまでの歴史の振り返りとこれからの取り組みについての講演と展示が行われました。

第65回日本呼吸器学会学術講演会（JRS2025）の井上会長（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科呼吸器内科学分野 教授）は開会冒頭の挨拶で、医師や事業者、国内外の様々な分野との連携が医療の発展につながると発言。出展企業に対しては、各社からのさらなる支援を求めるコメントがありました。参加者数は会場参加5,200名、WEB参加10,200名との発表があり、昨年を上回る結果となりました。



会場案内（左上）と会場入口（右上）
井上会長（左下）とJIMGAブースの様子（右下）

JIMGAブースでは在宅酸素療法における火災予防啓発ビデオを展示

JIMGAブースでは、在宅酸素療法における火災予防啓発ビデオの動画展示と各種パンフレットの配布を行いました。今回は昨年発行した「自然災害対策の手引き」をはじめ各種災害対策関係資料を中心とした展示を行い、医療関係者に対し災害対策の重要性を重点にPRしました。



次回の第66回日本呼吸器学会学術講演会は、2026年4月17日～19日に神戸国際会議場で開催されます。

（技術・保安グループ 事務局 長沢 修二）



展示会場 全景



在宅酸素療法保険適用40周年記念展示

ウェブサイト掲載お知らせ一覧 —2025年2月15日~2025年4月15日掲載—

JIMGAウェブサイトでは、会員の皆様に向けた最新の情報をお知らせページにて掲載しています。2025年2月15日~2025年4月15日までに掲載したお知らせをまとめましたので、URLよりご覧ください。最新のお知らせはこちら→ <https://www.jimga.or.jp/news/>



- 2025.04.15 「家庭用品中の有害物質試験法について」の一部改正について
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1563>
- 2025.04.15 価格改定のお知らせ
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1562>
- 2025.04.08 米国自動車関税措置等により影響を受ける中小企業との取引に関する配慮について
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1561>
- 2025.04.07 「家庭用不快害虫用殺虫剤安全確保マニュアル作成の手引き（改訂版）」の送付について
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1559>
- 2025.04.04 毒物及び劇物のオンライン販売に係る留意事項について
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1558>
- 2025.04.04 第65回日本呼吸器学会学術講演会に出展します
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1557>
- 2025.04.02 レバレジーズ株式会社が運営する「レバウエル看護」に掲載されました
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1556>
- 2025.04.01 物資の流通の効率化に関する法律に基づく努力義務規定等の施行について
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1555>
- 2025.03.24 本人認証サービス「3Dセキュア」導入のお知らせ
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1554>
- 2025.03.24 システムメンテナンスのお知らせ
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1553>
- 2025.03.24 2026（令和8）年度卒業・修了予定者等の就職・採用活動に関する要請等について
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1552>
- 2025.03.19 2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）開催に伴う毒物及び劇物の適正な保管管理について
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1551>

- 2025.03.19 「毒物劇物の判定基準」の改定並びに 毒物又は劇物の指定及び除外の審議申請方法について
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1550>
- 2025.03.19 フリーランス・事業者間取引適正化等法の周知等について
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1549>
- 2025.03.14 荷主向け物流改善関連法令説明会の動画等のご案内
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1548>
- 2025.03.06 令和7年「STOP！熱中症クールワークキャンペーン」実施について
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1560>
- 2025.02.28 JIMGAnews 第86号発行のご案内
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1547>
- 2025.02.26 2025年3月「価格交渉促進月間」のご案内
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1546>
- 2025.02.21 （登録期限：2/21（金）※）改正物流効率化法の基本方針に関する荷主業者向け検討会のお知らせ
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1545>
- 2025.02.18 【気象庁連絡事項】2月17日からの強い冬型の気圧配置について大雪に係る気象庁連絡事項<第2報>（大雪による交通障害に注意・警戒）
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1544>
- 2025.02.18 容器検査時における「外面及び内面処理工程に関する注意喚起」掲載について
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1543>
- 2025.02.17 【気象庁連絡事項】2月17日からの強い冬型の気圧配置について大雪に係る気象庁連絡事項<第1報>
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1542>



販売品の価格改定について

先般よりウェブサイトにてご案内しておりましたとおり、諸費用の高騰および安定供給の観点から2025年5月7日(水)受注分より一部出版物の価格を改定いたします。

会員および関係者の皆様にはご負担とご不便をおかけすることとなり、大変恐縮ではございますが、ご理解いただけますようお願いいたします。

改定後の新価格については以下をご覧ください。

商品名	新価格 (会員・税込)	新価格 (非会員・税込)
高圧ガス容器配送ターゲートリフター付車両に関する特別教育(印刷資料)【会員限定】	2,640	—
液化炭酸ガス保安テキスト(合本版)	4,950	9,900
酸化エチレン滅菌ガスハンドブック	2,310	4,620
医療ガス設備点検整備記録帳作成指針	3,850	7,700
医療ガス・供給機器の取扱いについて	1,650	3,300
医療ガス設備工事 既設配管停止工事 施工指針	2,530	5,060
医療ガス設備設計指針	3,410	6,820
高圧ガスハンドブック 第4次 改訂版	6,600	9,900
在宅酸素療法用の液化酸素装置を安全に使っていただくために(周知文書)10部セット【会員限定】	1,870	—
医療ガス消費者のためのヒヤリ・ハット事例集 在宅編	1,650	3,300
医療ガス消費者のためのヒヤリ・ハット事例集 病院編	1,870	3,300
水素ガス集結容器集合配管管理基準	3,080	6,160
高圧ガス充填工場及び貯蔵所の自然災害対策指針	5,500	11,000
水素ガスハンドブック	3,080	6,160

企画・事業グループ 事務局

新事務局員の紹介



名 前：齊藤 久美子(さいとう くみこ)

現住所：北海道札幌市

趣 味：ボウリングが好きで、マイボール・マイシューズ・マイロッカーを持ち今は週1程度ですがボウリング場通いをしています。
また、フランスの伝統手工芸カルトナーージュを月1で習いに行っており、制作した作品をプレゼントすることで幸福感を味わっています。

抱 負：ご迷惑をおかけすることが多々あると思いますが、日々学習をしながら1日でも早くお仕事を理解しお役に立てるよう努力してまいりますので、何卒よろしくようお願い申し上げます。



気ままに コラム

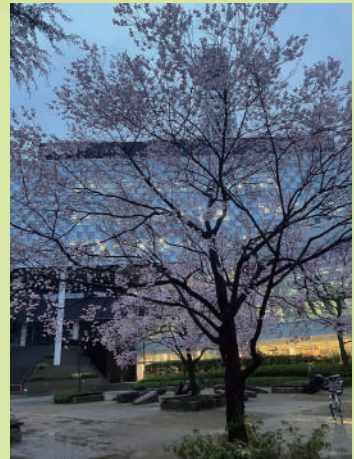


<東北の3月>

月並みですが、皆さんは、1年のうち好きな月はいつですか、と言われたら答えがありますでしょうか。私は12か月の中で3月が一番好きです。

「弥生」という響きも好きな理由の一つではありますが、東北の3月はまだまだ冬の上旬と、一気に温んでくる下旬に格段の温度差があり、そのまま身を任せていると体が溶けだしそうな感覚になります。この感覚を味わうのが毎年楽しみで、長い冬を乗り切ろうと頑張ることができます。また他の月とは風景も一味異なり、特に北東北の車窓からは雪の残る田畑の中を、もうすぐの春を予感しながら旅することができ、何とも言えない心地良さを感じることができます。

最近では4月に入れば直ぐに桜が咲き出して萌え出ずる春となりますが、私は直前の3月に楽しみを見出して生活しています。首都圏出身者の私だから余計に感じるのかも知れませんが、東北生活の一番の醍醐味を感じることができる時節になっています。 (東北地域本部 新堀 英之)



3月の景色を撮り忘れましたので、咲き始めの仙台の桜を1枚。

